

地域密着型サービスの自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	H18年4月より地域密着としてスタートしましたが他町出身者が1名います。“ゆっくり、楽しく、一緒に”を目標にしています。第2の自宅としてその人のペースで職員に見守られ一緒に、そして楽しいひとときを提供できるように努力しています。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に掲示し、常に心に言いきかせ、実行に心がけています。	○
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホームの目標の実現に向けて機会をとり家族の協力、理解をもらっている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の人への挨拶・世間話等をしている。近所の子供がたまに遊びに来て庭で遊んだりして交流を図っている。	○
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会・老人会等の参加は現在行っていない。地域で行われる展示会などに出向いている。法人内では地域のボランティアの方々によるクラブ・催し物等があり参加している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		<p>現状報告、困っていること等をオープンにして、家族や地域の方々の意見を参考により良いケアに繋げて行きたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		<p>何気なく使っている言葉に意識を持つように心掛けている。また、本人では気づけてない点等注意しあっている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、契約書、重要事項説明書を説明し、理解・納得のうえ契約をして頂いている。家族の不安・疑問・要望も聞きだし、それに対してきちんと答えている。	契約書、重要事項説明書を一文、一文しっかりと口述し理解、納得を得ている。また、入居者・家族の疑問・不安を聞きだし対応している。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者は、訴えを職員に直接言われる。居室や外出をして1対1で話せるよう配慮する。また、定期的に第三者の傾聴の時間があり、職員には言えない事は第三者を通して把握・解決に努めている。	日常の関わりの中で、入居者が抱えている事を聞きだし、職員で把握・対応している。また、入居者同士の会話にも耳を傾け、把握するようにしている。第三者を通しての入居者のニーズも把握している。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時には必ず状態報告している。また、転倒・熱発等の際は電話にて随時報告して。預かっているおこずかいは、家族に毎月確認、サインをして頂いている。職員の異動については、ホーム独自の便りで知らせている。	入居者の健康状態についての連絡は随時行っている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書、玄関入り口に苦情処理窓口を明記している。また、直接対応している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議では、経営者と職員が参加し、現状報告・意見交換を行っている。また、法人内の会議も毎月行われており、情報交換・意見交換の場となっている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	緊急を要する事等に関しては、話し合う場を設けている。出来る限り、勤務の調整は行っている。また、毎月の会議では一人ひとりの状態・問題等を話し合っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に、家族や本人に見学に来て頂いて、ホーム内の雰囲気等を見て頂いている。また、入居前に訪問して家族・本人と話したり、常態の把握をしている。なじみの関係が早く築けるように努力している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に見学に来て頂いている。また、入居前に訪問し家族との話し合う場を設けている。また、法人内のケアマネを通じて、随時ニーズを聞いて応えられるように努力している。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族、ケアマネとの話し合う場を設け、適したサービスを話し合っている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、居室の環境作り等を家族に依頼している。法人内の事業所を利用している方の入居が多いため、事前に顔なじみになるように努めている。	法人内事業所を利用中ならば、他部署の職員の協力を得て、ホームに散歩に来て頂いたりして少しずつ馴染んでいけるような努力はしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と職員の関係だけではなく、「ゆっくり、楽しく、一緒に」の理念のもと生活を共にするケアを提供している。	入居者の気持ちを理解する事を大事にしている。関わりの中で、昔の事や本人の得意としている事柄を聞き出し学んだりしている。時には職員が子供や孫のような存在になる関係も大事にしている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日々の入居者の状況を家族に報告している。家族の気持ちを理解しつつ協力を得ている。		入居者の状態はもちろんだが、ちょっとした言動や出来事等職員間だけの感動で終わらせず、家族にも伝えている。職員と家族一緒に協力して本人を支えていくよう努めている。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人だけでなく本人と家族との関係も情報収集を行い、より良い関係が築けるように努めている。		本人と家族の関係を理解した上で対応している。面会時はゆっくり一緒に過ごせる場を提供。定期的に外出・外泊を依頼している。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へドライブしている。馴染みの人の面会を受け入れている。		定期的に自宅へ外出・外泊を依頼している。懐かしい場所へのドライブも行っている。知人の面会時には家族に伝え、より詳しい情報収集を行い、関わりの中でも話題にする。
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の個性を把握し日々の入居者同士を観察しながら、他者との関わりが出来るようにサポートしている。		相性の良い方同士を近くの席にしたり、レクリエーションや手作業を一緒に行っている。入居者同士関わりが持てるようにきっかけを作り、会話をサポートする。孤独が好きな方もおられ、それも尊重している。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も野菜などを持ってきてくださったり、その後の状態報告を電話や手紙でして下さる方もいる。関係が続いている。		今後そのような希望があれば、喜んで大切な関係を築いていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活歴を把握し、本人・家族と話し合い、出来る限り希望に添えるように努めている。困難な場合は、本人とよく話し合い本人の納得いく方法を考える。	外出希望時は家族に連絡をとり、依頼する。入居前に参加していた法人内でのクラブ活動の参加を継続する。一人ひとりのペースに合った生活を尊重している。希望に添えない場合は、家族に相談・協力を仰ぐ
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族からの情報収集を行っている。担当ケアマネから必要な情報を行っている。	本人・家族からの情報収集以外に、日常生活での中での観察や、関わりの中でも以前の暮らしぶりを見出している。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日中・夜間の状態を細かく把握している。毎月の会議で一人ひとりの身体・精神状態の報告及び把握に努めている。	申し送りノートに一人ひとりの様子を毎日記録して、全体の把握に努めている。毎月の会議では担当職員が一人ひとりについて報告、全員でカンファレンスをする場を設けている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の希望を充分に取り入れ、計画作成担当者を中心に作成し、落ち着いた時間の生活が送れるように作成している。	一人ひとりに適した質の高い計画が作れるように努力したい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しを行っている。状態変化時は現状にあった計画を作成している。	一ヶ月毎に短期目標、三ヶ月毎に長期目標の評価を行い、三ヶ月毎に作成する。その後、家族に説明し了承サインをもらっている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の日誌や介護計画に添ったケアチェックシートの記録を行い、毎月の会議で話し合っている。		介護計画作成者を中心に支援経過の記録及び見直しを行っている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所としては可能な限りの希望は受け入れ、職員の勤務時間外でも対応している。		入居者の重度化に伴いグループホームとしての本来の支援の範囲は広がるばかりである。法の改定と現場の状況で考えていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	併設機関でのボランティア活動と一緒に参加している。	○	事業所内でもボランティア募集している。協力を得ながら、より良いサービスを提供していきたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者の希望や意見を尊重し、事業所、当法人にこだわることなく行っている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在は活動していないが、今後協働していきたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		<p>一ヶ月に一回、家族に連絡し受診して頂いている。突発的な疾病時も連絡し受診を依頼。現在、スムーズに行われている。</p>
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		<p>内服でコントロールする場合は状態観察を行い、次回の受診時に細やかに報告する。気軽に認知症について相談できるようなネットワークを持ちたい。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		<p>内服薬の管理、予薬（看護師不在時は介護職が予薬している）看護・介護間の申し送りも徹底されている。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>定期的に家族との面談を行い、状態を把握して頂き、家族の意向等を書面で確認する。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>グループホームも将来的に見取りを行う事になると認識している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p> <p>細やかな情報収集を行っているし、提供している。</p>		<p>介護面・看護面においての状態報告及び対応法等、事細かに情報提供している。</p>
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>人生の先輩として尊敬の気持ちを常に持っている。記録に関してもプライバシーの確保は出来ている。</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>本人の思いや、希望が表せるような声かけ雰囲気作りに努めている。</p>		<p>「～がしたい」「～に行きたい」という希望が少しでも叶えられるように努めたい。</p>
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>危険のない範囲でマイペースに過ごせるよう支援している。希望があれば出来る限り添えるように努めている。</p>		<p>起床時間・就寝時間・食事をとる時間等、その方に合わせたペースで行っている。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>本人の希望を尊重している。家族の協力を得て、美容室へ行く方もいる。</p>	○	<p>毎月、美容師か来ての散髪日がある。女性の入居者にはボランティアでメイクをしてもらえ、もっと充実させたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	<p>畑で野菜を育て、収穫した野菜を見て、触って、食材にしている。季節に応じた野菜を植え、育てたいが、高齢化に伴い少々困難になっている。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		<p>外出・外泊等で本人の望む事を家族の協力により実現してもらっている。</p>
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		<p>自然排便の方が増えるように支援していきたい。</p>
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	<p>希望時に対応できることが課題。</p>
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
<p>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</p>			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		<p>家族協力のもと、一緒に食事を作ったり、食事したり、家族と過ごす時間を増やせるように支援したい。</p>


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかいを家族より預かっている。管理は職員で行っているが買い物に行ったり、法人内の売店での買い物時には所持し使っている。		毎月、家族に確認サインをもらっている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来る限り希望に添えるように努めている。		家族面会時には戸外への散歩を依頼している。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	計画を立て、家族の協力を得て外出支援を行っている。(お花見・ピクニック等)	○	定期的に外出機会をもっと増やせるように努めたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時や本人宛に荷物が届いたりした時、また、家族を恋しがる時等は電話をしている。	○	手紙の支援を行って行きたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居心地良く過ごせる雰囲気作りに努めている。職員も家族と顔なじみになり、より良い関係が築けるように努めている。		外部者に対して挨拶・心配りをきちんと行う。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないと全職員が認識している。基本的に身体拘束は行ってないが、転倒・転落の危険性が高い方のみ片側2点柵使用している。		毎月の抑制廃止委員会で検討。Drの指示にて実施。毎月、家族からの承諾を得ている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅欲求の強い方がいて、必要時に危険防止の為、施錠を行っている。	○	自由に外に出れるよう、鍵をかけないケアに向けて努める。
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、フロアーには常に職員がいて、所在確認や様子観察を行っている。夜間は小まめに巡視を行い見守りを徹底し常に安全面に配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人の希望等があれば、職員の守りのもと使用している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	勉強会・全体会・避難訓練等を行い、事故防止に取り組んでいる。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会・訓練を定期的に行い、備えている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行っている。災害時は併設の職員の協力や、地域の人達の協力も得られるようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	発生時にはマニュアルにて実行する。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・包丁・はしは毎日、ハイター消毒している。湯のみ等は週1回でハイター消毒している。食器類も使用前に消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周囲は木立で囲まれており駐車場もある。庭には畑があり、季節の野菜や花を植えて親しみやすい雰囲気を作っている。玄関には、貼り紙や看板を置いている。観葉植物を置き明るい雰囲気にしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や光には配慮している。畳・ソファ・本棚等を置いて、家庭的で居心地の良い雰囲気を作っている。廊下には花々の写真を飾っている。生花や観葉植物を飾ったりしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各場所にソファや椅子を置いて、居場所作りに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅で使用していた毛布や枕等使い慣れた物で安心して休まれている。洋服かけ等、自宅で使用していた物を置いている。思い出の写真等も貼りその人らしさを大切にしている。</p>	○	<p>もう少し、馴染みの物を家族と相談しながら増やして、一人ひとりその人らしい居室作りに励みたい。</p>
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>毎朝、窓を開けて換気を行っている。また、臭いがあればその都度、換気を行っている。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホーム内はバリアフリーになっていて、廊下・トイレ内には手すりが付いている。</p>	○	<p>グループホーム開設時と入居者の身体状況が大きく変化し、改修が必要となってきた。</p>
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>トイレのドアはピンク色に区別されている。居室が分からなくなる方には居室の入り口に、本人の好きな物を飾り目印にしている。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>天気の良い日は庭で散歩したり食事したりしている。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない 常時、一緒にゆったりと過ごすことは難しいが、時間をみつけて寄り添う事に努めている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない 入浴に関しては、曜日が固定されており、希望に添えない時がある。一人ひとりのペースに合わせた対応に努めている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない 要見守りの方が多く、すぐすぐには対応が難しい時がある。叶えられるように努めている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない 安全面に関して、要見守り・転倒の危険性の高い方が多くおられ、夜間の職員一人での対応で不安な面もある。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

○食事面に関しては、”美味しいものを召し上がって頂きたい”という思いが全職員にあり、毎食毎食バランスを考え、愛情込めて作っている。

○職員は、入居者一人ひとりを尊重し、その方の生きて来られた人生を大切にコミュニケーションを図っている。

一日一日、一瞬一瞬を大切にし穏やかで笑顔の多い時が送れますように、心を寄り添う事を大切にしている。

当たり前だが、入居者お一人お一人を全職員がとても大切に思っている。